

令和 7 年 8 月 吉日

ご家族様 各位

社 会 福 祉 法 人 白 寿 会
特別養護老人ホームプレミア扇
施 設 長 山 口 智 義

令和 7 年度 家族懇談会実施に関するご報告

拝啓

深緑の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素よりプレミア扇の運営に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

先日お知らせ致しました通り、下記日程におきまして家族懇談会を開催いたしました。概略ではございますが当日の実施内容をご報告致します。詳しくは別紙をご覧ください。

なお、ご不明な点およびご質問等は下記担当者までお問い合わせください。

敬具

記

令和 7 年度 家族懇談会

日 時：令和 7 年 7 月 27 日（日）14：00～15：00

場 所：プレミア扇 1 階デイサービスルーム

同封資料

- | | |
|------------|-----|
| ・ 家族懇談会報告書 | 1 部 |
| ・ 家族懇談会資料 | 1 部 |

家族懇談会 報告書

●参加職員の紹介

施設長	: 山口
医務課	: 松平
栄養課	: 高木
介護課	: 鈴木、重島
相談課	: 日浦、萩原、金井、小田
機能訓練課	: 橋本、引地

1. 前年度報告及び職員紹介（施設長）

令和 6 年度は 3 年ぶりの介護報酬改定が行われ、今までより安定した収入を取得し、ご利用されるお客様が不利益を被らない施設運営を行うべく①安定したベットの稼働 ②新規加算の取得および減算項目への取り組み強化 ③経費削減の 3 点に焦点を当て、取り組んできたことをご報告致しました。

特に、減算項目への対策として、BCP(災害時の事業継続計画)への取り組み、虐待防止の取り組み強化を中心に行い、日ごろからの防災意識を高める訓練の実施や、職員同士が働きやすく、相談のしやすい職場環境作りに現在も力を入れて取り組んでおります。

実績として、特養入居稼働率：92.4% ショートステイ稼働率：137.5% 合算：96.3% と高水準で推移する事が出来ました。

また、令和 5 年度と比較した際、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染が落ち着いた事や協力医療機関である梅田病院との月 1 回の連携会議を通じて情報共有を密にした結果、入院件数：年間 19 件(令和 5 年度：40 件)、平均入院期間：37 日間(令和 5 年度：55 日間)といずれも減少した結果でありました。

サービスの観点からは、日本全体でも大きな問題となっている物価高騰による影響が当施設でも起きており、特に食材費の高騰に色濃く影響しております。

給食部門を委託契約している(株)メフォスより、食材費の高騰により月 70 万円程の値上げ要求があり、他の業者の検討、直営化、皆様の負担金の値上げ等を含め検討を重ねた結果、令和 7 年度は引き続き(株)メフォスへ委託し、職員一丸で経費削減、加算の取得等の企業努力で乗り切っていく事で結論付けました。しかし、今後さらなる物価高騰が続き、施設運営が立ち行かない状況になった際には、改めてご相談させて頂く場合がある事をご説明しております。

ご案内として、令和 6 年度の秋には 5 年ぶりとなる地域交流会を開催し、大変好評であった事から今年度(令和 7 年度)も開催が決定し、10 月 26 日(日)を予定しております。大勢の方々のご来所をお待ちしております。

最後に、新たに入職した職員と退職職員をご紹介致しました。

- 入職者 2 名 橋本篤（機能訓練指導員） 小田ちひろ（生活相談員）
- 退職者 1 名 金井麻里子（勤務は令和 7 年 8 月までとなります。）

2. 今年度計画(大規模改修について) (施設長)

プレミアム扇が開所して19年目となり、令和7年度中にプレミアム扇の大規模改修を執り行う運びとなりました事をご報告致しました。その中では、大規模改修に関わる費用(補助金)や工事着工から工事完了までのスケジュールをご案内しております。

ご生活されているお客様に出来る限りご不便を掛けない事、安全に穏やかに過ごして頂く事を大前提に実施する旨をご説明し、改修箇所のご案内をさせて頂きました。

現状、令和7年10月1日より工事着工、令和8年2月28日に工事完了を予定しております。

3. 介護人材施策とICTの活用について (介護課：鈴木・重島)

●介護人材施策について (重島)

昨今の介護職員の担い手不足に対し、当施設では現役介護職員の母校(沖縄県立中部農林高等学校)へ赴き、先輩職員が後輩である学生の皆さんに、介護のやりがいや魅力を語り、将来の担い手に繋げる取り組みを行っている事をご紹介致しました。

この取り組みを行って4年目となりますが、現在では学校卒業後に東京へ上京し、プレミアム扇で働いてくれる仲間が5名に増えました。

●ICTの活用について (鈴木)

介護職員の負担軽減および業務効率化を高める事により、ご生活されているお客様へ、より手厚いサービスが提供できるようICT機器を導入している事をご説明致しました。昨年度には見守りライフ(ベットセンサー)、見守りカメラを導入しましたが、今年度は新たにサニタリーセンサー(排泄センサー)を導入致しました。

サニタリーセンサーとは、ご利用者様が排泄した際にトイレに設置しているセンサーが感知し、職員が携帯しているスマートフォンに通知が来る物になります。

この機器を活用する事によって、ご利用者様の羞恥心に配慮すると共に、正確な排泄状況を看護師や介護職員が得られる事により、不必要な下剤を内服せずに済むというメリットが生まれる事をご説明致しました。

4. 施設の介護医療体制と諸制度について(相談課：日浦)

現在の日本の介護を取り巻く課題と、社会福祉法人白寿会が取り組んでいる対策をご説明致しました。

現在、介護職員の人材不足やそれに伴う業務過多によるストレスの増大や虐待行為が全国で報道されており、非常に懸念されております。その他にも介護事業者の経営難、介護難民の増加、若い世代が介護に関わらざるを得ないヤングケアラーの問題、社会保障費の増加等、介護を取り巻く環境が大きく変化してきております。

社会福祉法人白寿会は、職員が働きやすく、子育てをしながらでも安心して働ける労働環境を整えながら採用活動を行っている事をご説明すると共に、入職後の積極的な外部研修への参加、内部研修の充実化を進め、専門性の向上にも取り組んでいる事をご案内致しました。その他にも、介護課より前述した新たなテクノロジー機器を導入する事で、介護職員一人にのしかかる負担を軽減すると共に、お客様への新たなサービスが展開できるよう努めております。

また、全国にある社会福祉法人のうち、経営難に陥り、路頭に迷っている法人が多数存在している現状がございます。当法人では、社会福祉法人連携推進法人(青海波グループ)を設立し、他法人の立て直しや派遣対応を行う事で、介護難民が今まで以上に増大する現状に歯止めをかけるべく取り組んでおります。

その他にも当法人では、ある日突然、家族の介護問題に直面した時にすぐに相談ができる地域包括支援センター、住まいを整えるサービス（住宅確保要配慮者居住支援法人）、ケアマネージャーを派遣する居宅介護支援事業所、日帰り利用ができるデイサービス、宿泊可能なショートステイ、終の棲家となれる特別養護老人ホームと、その方が当法人の一連の流れで適切な介護を受けることができる地域包括ケアシステムを推進しております。

次に、特別養護老人ホームの特徴である看取りケアについてお話をさせて頂きました。人間は、老いを重ねると自然と身体機能が低下し、食事量の減少、睡眠時間の増加が見られます。その時に私たち職員ができる事には限界があります。なによりご家族の力が必要になる事をご説明致しました。その方の生い立ち、仕事、趣味、嗜好等、代弁者となるご家族との協同により、ご本人様らしい最期まで生ききる個別性に富んだ支援をご一緒に行っていく事をお伝えさせて頂きました。

最後に、事前アンケートで伺ったご質問(現在のご入居者様の平均年齢等)に回答しております。

今年は 32 家族 43 名の方に御参加頂き、和やかな雰囲気でご会を進める事ができました。残念ながら今回御参加頂けなかったご家族の方々には来年のご参加をお待ちしております。